

弊社の出版物に以下の誤りがありました。謹んでお詫びするとともに、下記のように訂正いたします。

◆正誤表に掲載されていない正誤に関する疑問点がございましたら、下記項目をご記入の上、電子メール、FAX、または郵送にてお送りいただくようお願いいたします。

- ① 年月号
(例:教職課程 2015年9月号)
- ② ページ数、問題番号
記載されているページ数、問題番号をご記入ください。
- ③ 正誤についての問い合わせ内容
内容は具体的にご記入ください。(例:問題文では“ア～オの中から選べ”とあるが、選択肢はエまでしかない など)

〔送付先〕

- 電子メール:edit@kyodo-s.jp
- FAX:03-3233-1233 (協同出版株式会社 編集制作部 行)
- 郵送:〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5 協同出版株式会社 編集制作部 行

〔ご注意〕

年月号	頁数	項目	誤	正
2019年11月号	184-185	「専門教養 ステップアップドリル」 高校理科02 解答・解説	略	<p>[1] (1) $Babsin\omega t$ (2) 時刻$t+\Delta t$における磁束を$\Phi(t+\Delta t)$として、ファラデーの電磁誘導の法則より、$V(t)=-\frac{\Phi(t+\Delta t)-\Phi(t)}{(t+\Delta t)-t}=-\frac{Bab\sin\omega(t+\Delta t)-Bab\sin\omega t}{\Delta t}=-\frac{Bab}{\Delta t}(\sin\omega t\cdot\cos\omega\Delta t+\cos\omega t\cdot\sin\omega\Delta t-\sin\omega t)$ Δtが非常に小さいとき、$\sin\omega\Delta t\approx\omega\Delta t$、$\cos\omega\Delta t\approx 1$となるので $V(t)\approx-\frac{Bab}{\Delta t}(\sin\omega t+\omega\Delta t\cos\omega t-\sin\omega t)=-Bab\omega\cos\omega t$ [2] (1) $i_R=\frac{V_0}{R}\sin\omega t$ $i_L=\frac{V_0}{\omega L}\sin(\omega t-\frac{\pi}{2})$ $i_C=\omega CV_0\sin(\omega t+\frac{\pi}{2})$ (2) $\frac{1}{\sqrt{\frac{1}{R^2}+(\omega C-\frac{1}{\omega L})^2}}$</p> <p>(3) $\frac{1}{2\pi\sqrt{CL}}$</p> <p>〈解説〉 [1] (1) 磁場に垂直な面積は$absin\omega t$であるから、コイルを貫く磁束は$\Phi(t)=Babsin\omega t$となる。(2) 解答参照。なお、微小時間あたりの変化量を求めるというのは、すなわち微分の定義そのものであり、実際にこの結果は$V(t)=-\frac{d\Phi(t)}{dt}$としても求められる。</p> <p>[2] (1) 抵抗に流れる電流と交流電圧の位相は等しい。コイルに流れる電流の位相は、交流電圧より$\frac{\pi}{2}$だけ遅れる。コンデンサーに流れる電流の位相は、交流電圧より$\frac{\pi}{2}$だけ進む。電流を求めるにはオームの法則を考えればよいが、抵抗における抵抗値に相当するのは、コイルでは誘導リアクタンスωL、コンデンサーでは容量リアクタンス$\frac{1}{\omega C}$である。(2) (1)より、回路全体を流れる電流は$i_R+i_L+i_C=\frac{V_0}{R}\sin\omega t+\frac{V_0}{\omega L}\sin(\omega t-\frac{\pi}{2})+\omega CV_0\sin(\omega t+\frac{\pi}{2})$となる。ここで、第2項と第3項は、$-\frac{V_0}{\omega L}\cos\omega t+\omega CV_0\cos\omega t=V_0(\omega C-\frac{1}{\omega L})\cos\omega t$とかける。よって、$i_R+i_L+i_C=\frac{V_0}{R}\sin\omega t+V_0(\omega C-\frac{1}{\omega L})\cos\omega t$となる。ここで、三角比の合成を行えば係数は$V_0\sqrt{\frac{1}{R^2}+(\omega C-\frac{1}{\omega L})^2}$になる。したがって、回路全体のインピーダンスは$\frac{1}{\sqrt{\frac{1}{R^2}+(\omega C-\frac{1}{\omega L})^2}}$である。</p> <p>(3) 電流が最小になるのは、インピーダンスが最大のとき、すなわち$\sqrt{\frac{1}{R^2}+(\omega C-\frac{1}{\omega L})^2}$が最小になるとき、すなわち$\omega C-\frac{1}{\omega L}=0$のときである。これより、$\omega=\sqrt{\frac{1}{CL}}$となる。ここで、$\omega=2\pi f_0$だから、$2\pi f_0=\sqrt{\frac{1}{CL}}$である。変形して、$f_0=\frac{1}{2\pi\sqrt{CL}}$である。</p>
2019年6月臨時増刊号	16	キャリア教育 01問題文	あてはまる	当てはまる
		同 02解説	「第2章 発達の段階に応じた体系的なキャリア教育の充実方策」	「第2章 発達の段階に応じた体系的なキャリア教育」
		同 03解答	ア:自立	ア:自律
	17	同 04解説	⑤は「一律に正しいとされる」考え方を「教え込む」が不適切である。	⑤は『小学校キャリア教育の手引き』17頁で否定されているので誤りである。
			第1章 キャリア教育・職業教育の基本的方向性	「第1章 キャリア教育・職業教育の課題と基本的方向性
	20	同 15問題文	もともと不適切なものを	誤っているものを
	36	教育の理念に関する法規 04解説	～日本国憲法には記載されていない。～と～2は教育基本法第9条の規定通りであり正しい。～との間に右の文章が入る。	日本国憲法には「無償」と書かれているが、「無償の範囲」については書かれていない。文章1の「授業料の免除」は「無償の範囲」を示すことなので、1は×となる。
	38	同 11解説	～学校教育法第17条～	～教育基本法第17条～
	42	学校教育に関する法規 08問題文	～自主、(ア)自律及び協同の精神、～	～自主、(ア)及び協同の精神、～
	44	同 12選択肢	②ウエオカ	②アイウエオカ
	45	同 14選択肢	ア 学校運営	ア 学校運営
	46	同 15空欄ウ 解答	引き続き	引き続き7
	46	同 19選択肢	※「健康状態」が2つある	※「健康状態」を1つ削る
52	教育課題に関する法規 02選択肢①	～第1条に規定する小学校、中学校、高等学校～	～第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、高等学校～	
106	学習指導要領 特別活動 03解答	3	5	